

## 第9回日本ジオパーク委員会 議事録

日時: 2010年9月14日(火) 13:00~16:55

場所: 経済産業省別館 1120号会議室

### 出席者

#### 委員長

尾池和夫 国際高等研究所 所長

#### 副委員長

町田 洋 日本第四紀学会(東京都立大学 名誉教授)

#### 委員(五十音順)

伊藤和明 NPO法人 防災情報機構 会長  
加藤碩一 産業技術総合研究所地質調査総合センター 代表  
菊地俊夫 日本地理学会(首都大学東京 教授)  
小泉武栄 東京学芸大学 教授  
瀬古一郎 全国地質調査業協会連合会 会長  
高木秀雄 日本地質学会(早稲田大学 教授)  
中川和之 日本地震学会(時事通信編集委員)  
中田節也 日本火山学会(東京大学地震研究所 教授)

### オブザーバー

外務省広報文化交流部国際文化協力室課長補佐	渡邊 博
外務省広報文化交流部国際文化協力室	徳田 薫
文部科学省国際統括官付ユネスコ第三係	市川 恵
文部科学省研究開発局地震・防災研究課企画調整係	小多基矢
文化庁文化財部記念物課天然記念物部門主任文化財調査官	桂 雄三
農林水産省農村振興局農村政策部農村環境課環境資源保全官	中原正幸
農林水産省農村振興局農村政策部農村環境課課長補佐	長田実也
林野庁森林整備部研究・保全課環境保全専門官	中村 孝
経済産業省産業技術環境局知的基盤課課長補佐	高橋 潔
国土交通省河川局砂防部砂防計画課課長補佐	判田乾一
気象庁地震火山部火山課火山対策官	斎藤 誠
観光庁観光地域振興部観光資源課係長	平松大介
環境省自然環境局国立公園課課長補佐	藤井好太郎

### 事務局

産業技術総合研究所 佃 栄吉

脇田浩二  
高橋裕平  
渡辺真人  
濱崎聡志  
松島善雄  
吉川敏之  
澤田結基

日本ジオパークネットワーク 斎藤誠一

報道関係者

毎日新聞社、北海道新聞社、高知新聞社、熊本日日新聞社、南日本新聞社

配付資料

- 資料 1 公開プレゼンテーション審査，および第 8 回日本ジオパーク委員会  
議事録（案）
- 資料 2 日本ジオパークネットワーク系魚川大会報告
- 資料 3 第 4 回ジオパークユネスコ国際会議参加報告
- 資料 4-1 世界ジオパークネットワーク申請候補地域現地審査報告書
- 資料 4-2 日本ジオパーク申請地域現地審査報告書
- 資料 5 2011 年の募集・審査スケジュール（案）

13:00 開会

**【委員長挨拶】**

委員長より、本日は認定地の決定に向けて審議を行う旨の挨拶がなされた。  
この後、報道関係者退室。

**【資料確認】**

事務局により、配付資料1~5、JGN大会資料の確認がおこなわれた。  
室戸、阿蘇、霧島、伊豆大島から追加資料あったので、会場内で回覧した。

**【公開プレゼンテーション審査、第8回委員会議事録確認】（資料1）**

承認。

**【山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワーク現地審査報告】（資料2）**

資料にもとづき、事務局からの報告。

- ・ 昨年12月に申請、4月に書類審査通過、8月1~3日に現地審査が行われた。インフラ、コウノトリの評価が高かった。地域の一体感がほしいとのこと。10月1~5日にギリシャレスボス島で開かれるヨーロッパジオパークネットワーク会議で決定される。

< 質疑応答 >

- ・ 県知事のプレゼンテーションが好印象を与えた。
- ・ 同行した委員から、世界の審査を実感すべく、できるだけ委員も参加するとよいとのコメントがあった。今年は他地域からも同行希望が寄せられたが、最終的には現地側への配慮で遠慮したようだ。委員会としては、現地の意向を尊重することが確認された。

**【日本ジオパークネットワーク系魚川大会報告】（資料3）**

JGC事務局から、資料に沿って報告。

- ・ 11p事前相談会「8地域」「7地域」に訂正。大会宣言は英訳されてGGNにも報告予定。

JGN事務局から、別紙資料にもとづき説明。

- ・ 事前相談会は、申請希望の地域を把握するのを目的に実施した。総会では、JGNをNPO法人にすることが決定した。9月に内閣府へ申請、2月に認められる予定。来年度以降、事務局の拡充も予定しており、来年のJGN大会開催地は洞爺湖有珠山に決定した。
- ・ シンポジウムは盛況だった。大会報告書が出る予定。

第一、第二、第三分科会の報告。

- ・ ガイドの養成と品質については、各種グレードがあってよい（第一）。紹介された各地の取り組みの実例を参考に、今後のツアー開発に生かしたいという地域が多数あった（第二）。各地のジオ商品の紹介と千年後の構想が議論された（第三）。
- ・ 委員長から、このような分科会の取り組みは継続するとよいとのコメントがあった。

**【GGN申請候補-現地審査報告】（資料4-1）**

報告書にもとづき、現地審査委員より報告。

1) 室戸（8/17-18）

空港で地元バンドの歌による歓迎。高知コアセンターで知事や市長による挨拶。

(ジオサイト・拠点) コアセンターでアウトリーチ活動の説明。「道の駅」(入場料 200) に良い展示がある。液化化実験や、付加体ケーキ・ジオパーク弁当・鯨肉などの関連商品。全体の地質背景はわかるが、個々のサイトの位置づけとストーリーが不明確。ジオパークの売りの説明が必要。深層水の説明はジオとの関連に乏しく、吉良の町並みも良いサイトだがもっとジオの説明がほしい。拠点施設がないが、鯨館やインフォメーションセンターは整備されつつあり、バス停を改装した拠点を整備中。QR コード付き解説板があるが、品質はまだ不十分で一部再設置も必要。

(教育) コアセンターの活用や、高校での授業を生かしてほしい。

(運営) 知事をはじめ、県のバックアップはメリット。

(ツーリズム) 住民一体で推進している。ガイドを推進協議会でまとめているのはよい。

(国際) DVD や HP でも 5 カ国対応だが、解説板に誤りがある。

(防災) 安全面での対策は十分。ガイドによる自然災害教育も実施している。

(まとめ) 地元の取り組みが印象的で、GGN に申請する準備は整ってきている。

< 質疑応答 >

- ・ 個々のジオサイトの説明はしっかりしているが、深層水がここにある理由など、地質資源を結ぶストーリーが不足。ジオストーリーの売りは付加体であり、プレート境界で発生した巨大地震や台風のほか、気象データも合わせた地球物理学的な視点も入れるとジオパークとしての価値が出る。津波観測のブイもサイトに加えてほしい。
- ・ 拠点として、青少年自然の家が小中学生向けのジオツアーを実施しているが、アクセスと団体向けのみであることが難点。約 20 名のガイドは地域毎に分けられているが、ガイドを養成しているとは聞いていない。推進協議会に市職員として専門研究員を採用。
- ・ ジオパークのエリアを近隣まで拡げる努力は認めるが、周辺自治体と温度差がある。
- ・ GGN 審査では世界の人から見た価値が問われる。世界を意識した説明であることが必要。

## 2) 阿蘇 (8/10-11)

初日はカルデラ内北側を視察。2 日目は山上とカルデラ内南側視察。

(ジオサイト・拠点) 阿蘇 DC で概要説明。湧水がリモナイト(褐鉄鉱)を作っている阿蘇黄土は面白く、ジオパークの売りとなる。道の駅が Aso 田園空間博物館の一般人向けツアーの拠点。阿蘇神社では、神社の歴史および考古学専門家による説明。水基通りにはいろいろな水質の湧水がある。火山博物館は拠点として最重要で、インタープリター養成講座を長年実施。トロッコ列車からの南郷谷の特徴的な景観は、案内は詳しいがジオの説明がもっとあるとよい。酒造会社では外輪山からの水を使用したジオと酒造りの例。南阿蘇ビジターセンターは生態系の特に植物が中心で、阿蘇の草原化と人為的な歴史、氷期の植物が残っている。全般に、ジオパークの文字が見られない。

(教育) 火山博物館は、教育面やジオツアーなど、拠点の一つとしてよくやっている。インタープリターも品質がすぐれている。アクセスの遠さがデメリット。

(ツーリズム) すでに様々なツアーがあるが、その中でジオとの関連が薄い。ガイド団体は多いがそれぞれが独立しており、ガイドの品質向上のための連携に乏しい。

(防災) 中岳火口では火山ガス対策がよく整備されている。

(まとめ) 日本ジオパーク認定から時間が経っているが、ジオパークの解説板が皆無である。面白いジオは多数あるがストーリーに乏しく、エコツーリズム=ジオツーリズムと捉えているように見受けられる。全体に日本ジオパークとしての整備が進んでいない。

#### < 質疑応答 >

- ・ 阿蘇全体で年間 1800 万人の観光客があるが、山上ではジオをやっているものの、カルデラ底では従来からのエコ、グリーン、タウンツーリズムが発達しており、まだジオパークの意識が低いという印象。ツーリズム協会があり、従来経験を積んでいるのは評価するが、エコに偏っている。
- ・ 世界に向けての売りストーリーを考えてほしい。雲仙や有珠火山との違いについて、GGN へ出すときの戦略が必要である。世界的なカルデラではあるが世界一ではない。その中に人が住んでいることも阿蘇だけではない。
- ・ ガイドの科学的に正確な説明と向上を期待する。ガイドの教育システムの整備が必要。学術面でさらに積極的な支援を依頼してほしい。

#### 全体審議

##### < 阿蘇 >

- ・ 阿蘇は露頭が少ない。主要箇所解説板の計画はあるということだが、設置はまだ。
- ・ 協議会は、是非世界ジオパークになって、新幹線開業とともに観光客をよびたいとの想いが強い。阿蘇市以外も含めた 8 市町村の連携がほしい。
- ・ 火山博物館はジオをよくやっている。エコツーリズムは阿蘇 DC が進めてきているが、活動の実績は、従来のエコツーリズムでは不十分。DC の意図を明確にしてほしい。
- ・ 世界ジオパークでは、ジオと人のむすびつきが重要。阿蘇はジオとしては一級で、それらを人とのつながりでまとめれば、世界に出していい場所である。5 万人が暮らすカルデラとその地形、恵みはすばらしく、ジオ、生態系、人が関係する面白さがある。それらを一体化したストーリーがほしい。しかし、その前に、日本ジオパークとしてやるべきことをやってほしい。
- ・ GGN で落とされたらすぐには再申請できない。予定計画はあっても、まだ世界に推薦できる段階に達していない。GGN では実績が審査されるので、今の状態では難しい。結論として、阿蘇は見送る方向とする。

##### < 室戸 >

- ・ ストーリー作りに期待感がある。「海と陸とが会う場所」は世界ジオパークの中でも唯一で、子供たちにわかるストーリーとして十分アピールできる。ただし、まだ十分に練られておらず、海側から見たシナリオ作りをすれば一段とよくなる。これは昨年までの指摘と同様である。子供サマースクールの参加児童が財産になる期待もある。
- ・ 室戸は隆起による海成段丘として有名な場所なので、その話を盛り込むこと。コアセンターでは、できつつある付加体の断面を展示するなど、詳しい情報を示すべき。地震、津波など防災に関しても市民啓発の勉強会を行い、ジオパークに結びつけてきている。
- ・ ストーリーをどうツアーにむすびつけるか。解説板、ガイド養成はよくなっており、解説板の英語もよくなった。
- ・ 県のサポート体制がよくなり、3 年間で知事の理解も深くなった。
- ・ 結論として、室戸は推薦としたい。ただし、今のままでは不十分なので、かなり要望をつけて推薦する。

休憩

## 【日本ジオパーク候補-現地審査報告】（資料4-2）

報告書にもとづき、現地審査委員より報告。

### 1) 霧島（8/17-18）

- ・ 噴火の多い火山、温泉、湧水、神話、歴史と多彩だが、霧島全体としてのストーリーを確立する必要がある。ジオサイトの解説板が不十分。設置予定の解説板の原稿も文字が多すぎるので、わかりやすく要点をまとめてほしい。拠点施設の整備も課題。今後国立公園とのタイアップに努力、連携が求められる。
- ・ 運営体制は、鹿児島・宮崎両県にまたがるが、霧島市が中心。活動が個々の自治体に任せられており、一体感が乏しい。地元住民よりも自治体が先行している印象を受ける。
- ・ 教育活動は地元大学の専門家がよくサポートしており、ジオサイトの保護活動も実施。
- ・ 無料および有料のガイドが多く、勉強熱心であるが、ガイド団体同士の連携が乏しい。これらをまとめる協議会が必要。ガイド活動が活発なサイトとそうでないサイトの差が大きい。山岳地区のサイトは一般住民にあまり知られていないので、周知活動が必要。
- ・ ハザードマップの掲示は各所にあるが、目立たない。
- ・ 書類審査より印象は良くなった。

< 質疑応答 >

- ・ パークレンジャーはどんな活動をしているのか。                      ガイド役もこなしている。

### 2) 伊豆大島（8/28-29）

- ・ 最初に役場で説明。昨年 11 月の「火山防災とジオパーク」でジオパークを認識した。JGN のオブザーバーにもなっていなかった 5 月以降、短期間でかなり整備が進んだ。良いジオサイトが多数あり、既に大島町公認の有料ガイドが活動中。ジオと植物を結びつけた説明をしており、充実した内容で上手い。最近では山歩きの観光客も増えている。
- ・ 解説板は少なく、内容も一般向けでない。火山博物館の展示も専門的だが、説明の仕方次第。火山灰切断面の再活用も検討してほしい。地元駐在の気象庁専門家がジオパーク活動をサポートしている。
- ・ 現地で理解が増えた。子供への教育面が弱いこと、地元の意識がまだ低いことが課題だが、観光はもちろん地元への啓蒙に生かしたいという町長は、ジオパークへの理解が深い。当初の評価はきびしかったが、一丸となって進めていける印象を持った。

< 質疑応答 >

- ・ 島内には縄文、弥生時代の遺跡があるが、ジオと人の営みの関係については、マグマ水蒸気爆発火口跡である波浮港の歴史や遺跡に関する説明が良かった。
- ・ ガイドは町が認定しており、質が高い。火山に関してはプロガイドになるための養成講座があり、彼らは勉強熱心で向上心が高い。
- ・ 日本列島の中での伊豆大島の形成ストーリーは十分でない。静岡、伊豆半島とは関連させた説明がほしい。

### 3) 白滝（8/27-20）

- ・ 昨年は考古学偏重のため見送られたが、今年は、北海道の形成、カルデラ、黒曜石、遺跡など、ジオと考古をつなげる全体のストーリーができていた。また地元の熱意が感じられた。氷河時代の景観を読み解くために、風穴とアカエゾマツも加えるとよい。

- ・ 解説板の内容がむずかしく間違いもあるほか、地図中に縮尺や方位がなく土地勘のない来訪者にはわかりにくい。今後改善していくとのこと。
- ・ 拠点施設として、役場を来年ジオミュージアム化するが、専任スタッフは未定。市職員のガイドによるジオツアーはあるがまだ実績は乏しい。市民ガイドはまだ需要が少ない。
- ・ 黒曜石の保全是、徒歩による国有林道への訪問を規制できていない問題は残る。小学校での黒曜石の石器作りの授業は保全に影響を与える心配はない。民間の協議会もできた。
- ・ 防災面として、クマの問題は職員が同行する場合は対策できる。

< 質疑応答 >

- ・ 全国の体験型の黒曜石石器作りはすべて白滝産。盗掘対策など採掘はどうしているか。  
河原でも採れるほか、工業用原料として昔採掘した会社から町が買い取って利用。
- ・ 白滝と言えば遺跡である。考古は物の展示になりがちなので、当時の様子が前面に出るような展示を意識するとのこと。
- ・ 黒曜石のサイトは山中なので冬期と雨天日はツアーを行えないが、雨天でも可能なツアーはある。それでも実質は半年間である。

## 全体審議

< 白滝 >

- ・ 白滝は昨年の課題をかなり克服し、ストーリーができてきた。ジオパークとしてもよいと思う。現地審査では、地元の人がジオパークというキーワードでむずびついていた印象。黒曜石を用いたジオツアーもある。
- ・ 黒曜石は岩石名ではない一方、黒曜岩では一般人には馴染みが少ない。黒曜石に限定せず、「白滝ジオパーク」の方がストーリーに広がりが出るのではないか。
- ・ ジオダイバーシティとしては良い方向になってきている。島弧衝突という価値もある。カルデラの成因などまだ不明な点もあるが、研究が進んでいくジオパークというのも面白い。

< 伊豆大島、霧島 >

- ・ 霧島と大島ともに売りが見えず、もっと独自の特徴付けがほしい。他のジオパークの火山とは異なることを、日本列島と関連づけたストーリーで説明が必要。大島は、伊豆諸島の各火山の岩質の違いや、伊豆半島、アカホヤなどをストーリーに含めると、もっと広がりが出る。霧島の特徴は 20 個の火山だが、それら全体を束ねるストーリーが弱い。加久藤カルデラ縁の複成火山という位置づけや霧島という名前の由来、火口湖の多さと多雨との関係、地熱発電、地震観測所跡など、さらに砂防の話も入れると面白い。
- ・ 植物が好きな人は多いので、植生とジオとの関わりをストーリーに生かすと面白い。霧島では噴出物による植生の変化がわかる。大島ではイタドリなどが既に取り入れられている。えびの高原、伊豆大島はともに前兆地震の存在で有名なので、噴火と地震の関連もストーリーに入れると面白い。
- ・ 大島では、世界ジオパークをめざす前に日本ジオパークとしてまず実績を積んでほしい。他島との関係についても考えてほしいが、伊豆諸島は自治体の連携が乏しく、交通面でも課題が多いのが難点。
- ・ 世界と日本の評価点を比べると、日本は期待値を含み、世界は実績である。日本の場合は、確度が高ければ計画性も評価するが、確実性を慎重に見る。

- ・霧島の懸念事項は、ジオパークとしての拠点が弱く、訪問者が戸惑うこと。高千穂河原ビジターセンターに期待したい。鹿児島、宮崎ともにまだ県からのサポートは聞いていない。課題は多いが、地元でジオが浸透しつつあり、期待は込められる。火山防災は宮崎の方が先進的だが鹿児島も熱心になってきており、環霧島会議という枠組みもある。

< 結論 >

- ・3カ所とも認定する。白滝については名前を検討してもらう。

**【2011年の募集・審査スケジュール(案)】** (資料5)

来年の地感連合大会期間の2011年5月23日以降で、事務局が調整することです承された。

**【第5回国際ユネスコジオパーク会議の実施概要】** (持込資料)

標記について、中田委員から説明があった。配付資料に基づき概要説明。

- ・会期は2012.5.12～15の会期で、2012連合大会とは1週間ずれている。島原復興アリーナ他で開催。組織委員会等を現在調整している。組織委員会は10月の予定。

16:55 閉会